

第13期社会工学会
アジアダイナミズム班

わこう

倭寇とモンゴル帝国史

～海洋の渡海民と大陸の遊牧民～

学部生 : 田中 天野 羽田 山埜
大学院生 : 三田 谷ヶ崎 北山 山内 井内 森 森田 越田
修了生 : 光永
指導教員 : 金美徳 水盛涼一

研究目的・方法

- ✓ アジア班が**目指す論文**は、歴史の視点から現代・将来を展望する
- ✓ **文献研究**と**フィールドワーク**を中心に研究活動を行う。
- ✓ **歴史的観点、経営組織論、国際経営論**からも分析
- ✓ フィールドワークは社会情勢や訪問先の都合等も踏まえ計画
- ✓ 2020年は新型コロナウイルスによる世界的な感染拡大を踏まえ、
パンデミックの歴史研究を通じ、**ポストコロナの世界**を考えた。

2021年度のテーマは **倭寇**



2017年～2020年 論文の結論

2

2017

「モンゴル帝国のユーラシア興隆史」 総107頁

得られた示唆

1. 「経済連携」による「平和と安定」
2. リーダーの「思想」と「視野」

2018

「モンゴル帝国の興隆と衰退」 総244頁

得られた示唆

1. 拡大から縮小過程の生き方：成長だけではない生き方
2. リーダーの資質：資質とガバナンスの低下
3. 祖国という感覚が薄いからこそ世界統一ができたのか

2019

「モンゴル帝国と朝鮮半島」 総84頁

得られた示唆

1. 大帝国の属国でありながらも自らの価値を最大化する立ち回り
2. 柔軟な思考と強固なアイデンティティによる国家（組織）維持

2020

「パンデミックのユーラシア史とポストコロナ」 総118頁

得られた示唆

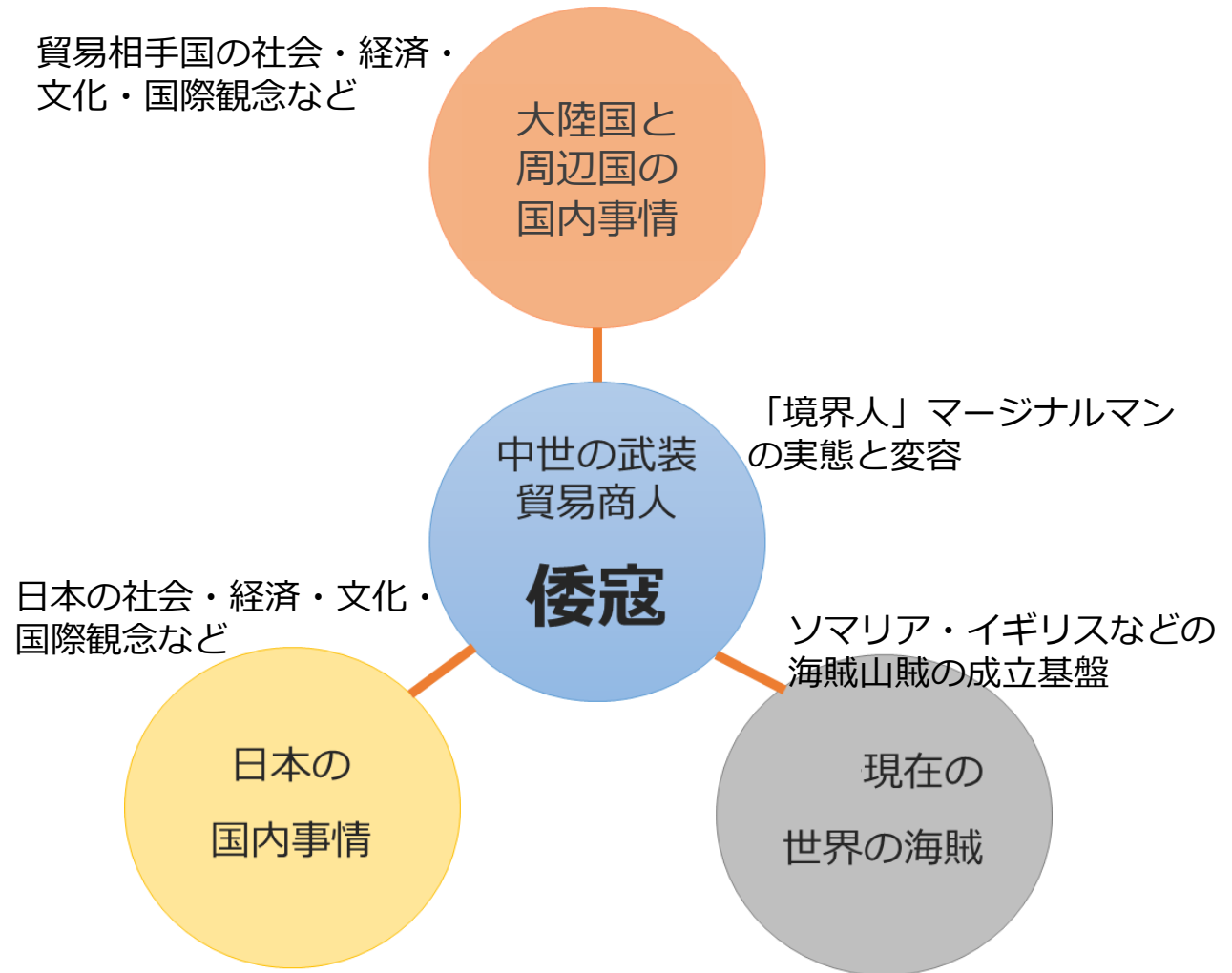
1. パンデミック発生時における人間の心情・行動変化
2. 現代に生きる日本人特有の衛生観念と気質・文化

2021年のテーマ (モンゴル帝国史5年目)



現代の**保護貿易路線**と**当時の貿易状況**を照らし合わせつつ、過去の**モンゴル研究**を活かし、**倭寇**を研究する

下記図を基に問題意識を抽出



1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

問題意識（合計15件）

1. 中世の武装貿易商人 倭寇

- 王直とは何者【谷ヶ崎】
- 「境界人」として、アデンティティとは何なのか【田中】
- 媒介という観点から見たマージナル・マン【羽田】
- マージナル・マンが当時の日本国の政治に及ぼした影響【森田】

2. 大陸国と周辺国の国内事情

- 【中国】後期倭寇の南方中国人と、華僑の始まりとの関連性はあるの【光永】
- 【中国・モンゴル・朝鮮】歴史の分岐点をつくった李成桂は、モンゴル（北元）中国（明）女真族（満州）倭寇とどの様に向き合い、対峙・対処してきたのか【光永】
- 【朝鮮】他の国から日本（対馬）はどういった認識だったのか【天野】
- 【琉球】周辺国がもたらした琉球・奄美への影響～思想・文化・言語の形成～【森】

3. 日本の国内事情

- 日本から見た倭寇はどのような位置づけになっていったのか【田中】
- 日本において倭寇が果たした役割【井内】
- 倭寇は善か悪か、倭寇以外にもこのような位置付けの民族は日本にいたのか【山内】

4. 過去現在の世界の海賊

- 海賊の存在が経済活動にどのような影響を与えてきたか【三田】
- ビジネスマンという視点から見る海賊【山埜】
- 民衆から見た海賊への印象の変化【森】
- ソマリランドの海賊から倭寇を俯瞰して見えるものとは。時代が生む海賊について【北山】

関連年表（13～16世紀）

世紀	中国・モンゴル帝国	高麗・朝鮮	日本
13世紀	1252年 ビルマよりペスト流入 1271年 元 建国	1223年 『高麗史』に倭寇の記事がはじめて記載される 1244年 日本船高麗に漂着、略奪	1274年 文永の役 1281年 弘安の役 1297年 徳政令を発令
14世紀	1305年 元が5つに分裂 1363年 倭寇が蓬州を襲う 1368年 明 建国 1383年 明で海禁の制を厳重にする	1358年 高麗では倭寇により財政が窮乏 1372年 琉球の中山王が明に朝貢 1392年 高麗が滅亡し 李成桂即位	1350年 倭寇が高麗の各地を襲う(倭寇の活動が激化) 1366年 高麗の使者が出雲に着岸し、室町幕府に倭寇の禁止を要求
15世紀		1404年 室町幕府と国交回復、日朝貿易が盛んになる	1419年 応永の外寇 1467年 応仁の乱 が始まる
16世紀		1510年 三浦の乱 が起こる	1523年 寧波の乱 1543年 種子島に鉄砲が伝わる 1592年 文禄・慶長の役

時代背景

前期倭寇

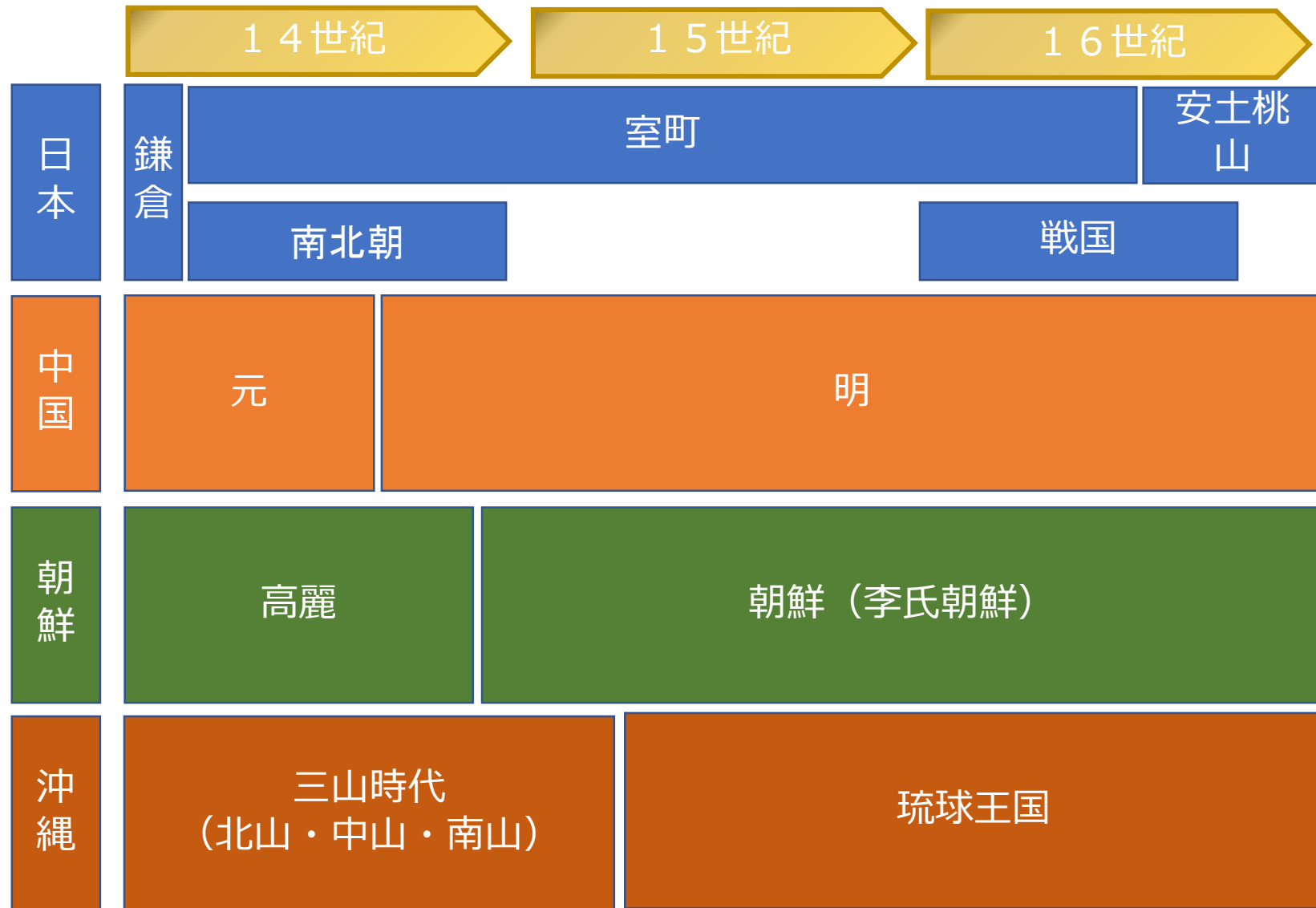


14～15世紀

後期倭寇

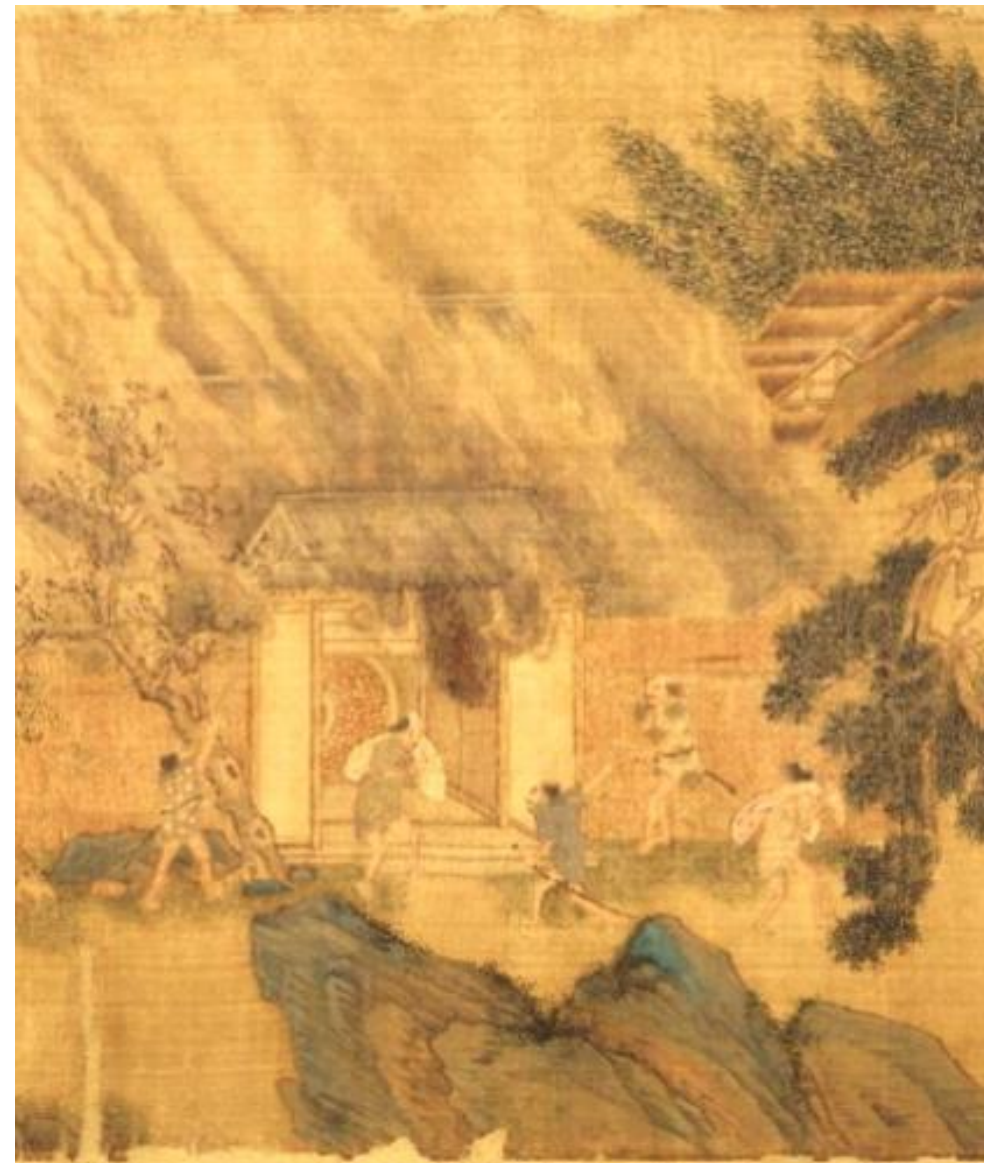


16世紀



倭寇とは

- 一般的に認識されている「**倭寇**」は、
 - 〔A〕 **14～15世紀の倭寇**（主に海賊活動）と、
 - 〔B〕 **16世紀の倭寇**（主に密貿易活動）とに大別
- 倭寇は東アジアの沿海諸地域を舞台とした海民集団の一大運動であり、**構成員は日本人に加え、朝鮮人・中国人・ヨーロッパ人**
- **倭寇の活動**は東アジア諸国の国内事情を母体とし、**国際関係の歪みを引き金として発生**
 - （〔A〕 蒙古の高麗侵入による進奉貿易の断絶／
 - 〔B〕 明の海禁政策による密貿易化）
- 中国大陆・朝鮮半島・日本列島・琉球列島・台湾・フィリピン・南方諸島地域の**諸国人民と歴史に関わりながら消滅**していった



出典：東京大学史料編纂所の所蔵「倭寇図巻」 富豪宅から獲物を持ち出す倭寇たちか

14～15世紀の倭寇

行動目標 : 米穀などの生活必需品、ヒト
 活動地域 : 高麗（朝鮮）の南部沿岸
 ⇒ 内陸・奥地への深侵入、明沿岸・・・朝鮮と交互
 根拠地 : 対馬・済州島
 人数規模 : 兵数～3,000／船数～400余隻・・・大規模なもの／騎馬隊有り
 構成 : 倭人*1～2割、沿岸地域の賤民*倭服・倭語を用いる海民、高麗・朝鮮人含む



〔対抗措置〕
朝鮮による倭寇の懐柔策

①投化倭人

内容 : 官職に取り立て〔日本居住者含む／接待・貿易権利〕
 ⇒朝鮮政府中枢へ進出
 構成 : 対馬・壱岐・松浦の出身者等
 対応 : 倭人同士で連携出来ないよう各州群に分置

②使送倭人・興利倭人

内容 : 使人として認定／商業活動許可者として認定
 構成 : 西日本諸大名（海賊大將軍）の家臣等
 ・・・対馬宗氏、九州探題渋川氏、肥前松浦党の諸氏、筑前宗像社、薩摩島津氏等
 対応 : 開港場としての三浦〔富山浦・乃而浦・塩浦〕⇒倭人居留地

③もとのまま海賊

⇒中国大陸へ・・・〔対抗措置〕明による「沿岸警・防備の嚴重化／日本への外交折衝」

前期倭寇

14世紀～15世紀の日本は、
 鎌倉幕府滅亡期であり、モン
 ゴル時代の富の残影を求め、
 武装勢力（倭寇）が海賊行為
 を行っていました。

16世紀の倭寇

行動目標 : 密貿易の調停、諜報活動 + 官憲対策のため武装 ⇒ 癒着・略奪・侵寇
 活動地域 : 中国大陸沿岸〔浙江・福建・広東〕 ⇒ フィリピン・南海地域
 根拠地 : 五島・薩摩・平戸（日本）、中国大陸沿岸、琉球（沖縄本島・台湾）
 人数規模 : 兵数50,000～60,000／船数～1,000余隻
 構成* : 明人主体、倭人、朝鮮人、ポルトガル人

*明官憲が自分の功績とするために明の盗賊やポルトガル商人も倭寇とひとくくりにしていたケース有り



〔対抗措置〕
明による倭寇対策

①警備強化

内容 : 沿海の要衝に築城・官兵配置、沿海住民の内陸部疎開（清野の法）

効果 : 一部地域での一時掃討も、倭寇からの反撃あり一進一退の攻防

②倭寇首領の説得・謀略

内容 : 最大勢力であった王直（倭寇国の王）に海禁を緩め、貿易を許すと説得

結果 : 望郷の念に駆られた王直は明政府に投降（後に斬首）

効果 : 王直の就縛が他の倭寇集団に失脚につながり、弱体化 ⇒ 転戦の末消滅へ

③海禁令の解除

背景 : 倭寇の主原因が海禁と深い関係を持っていることが世論によって指摘された

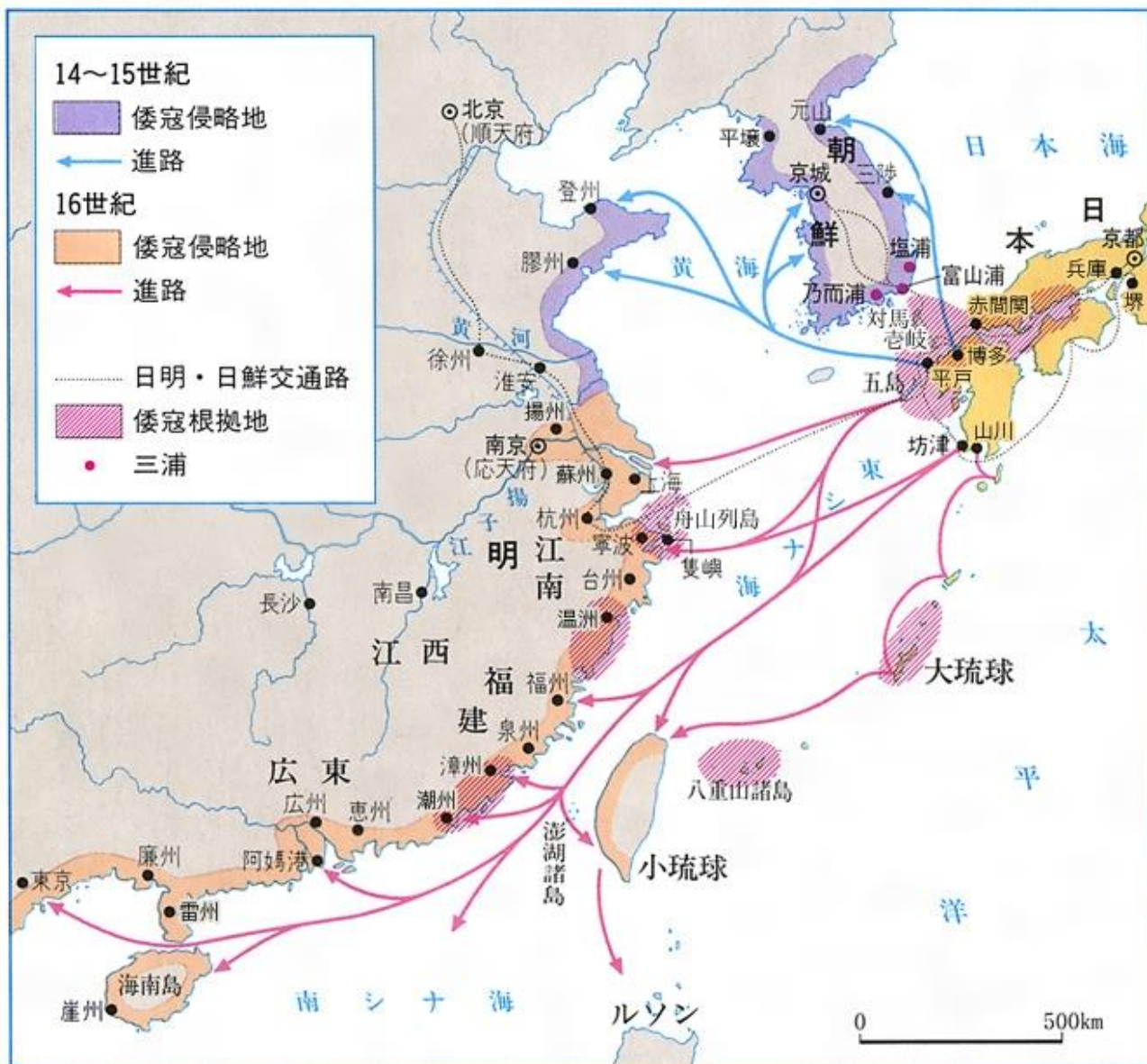
結果 : 200年続いた海禁令を解除*（中国内地人の海外渡航許可・密貿易の公許化）

*南海方面への出航貿易に限定、日本渡航と禁制品の海外帯出は継続禁止

後期倭寇

足利義満の明朝服属・日本国王拝受も今は昔、貿易をめぐる現地での暴力行為が原因で国営貿易は途絶。ふたたび密貿易の時代へ。中国側はいよいよ富裕になり、周囲からその富を狙われている。

倭寇の活動地域



(現在でいう)
日本・韓国・中国・台湾の
 沿岸部・海域



1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

1章 中世の武装貿易商人 倭寇

1. 倭寇の原点と実像 (担当：谷ヶ崎)

- 日本の古代海人族から中世倭寇国の王・王直に至るまで

2. 中世倭寇の活動と実態 (担当：羽田)

- 航路から紐解く交易手段と支配圏

3. 中世倭寇の影響力と爪痕 (担当：森田)

- 史料に残された記述から推察する中央政府と後世へのインパクト
～アウトローが築いた国家のルール

1. 倭寇の原点と実像

(担当：谷ヶ崎)

一 日本古代の海人族から中世倭寇国の王・王直に至るまで

日本古代の海人族(海神族)

九州を拠点とした
安曇氏・宗像氏等



海人族

(かいじんぞく、あまぞく)
弥生BC5世紀～3世紀に活躍

- ・航海、漁労など海上において活動し
4世紀以降は海上輸送で力をつける
こととなった



王直

中世16世紀の時代に活躍
＜生年不詳－1560年没＞

関係の可能性を
検証・考察中…！

中世倭寇国の王・王直

キーワード：「遊民の徒・智略」
「教養」「調停者」「倭寇国の王」

- ・智略に富み、人に惜しみなく施し、
信望は厚かった
- ・部下2,000余人を擁し、豪華な屋敷
に住み、港には300余人を乗せる
大船をうかべていた
- ・学問もあり計数にも明るく、衆望
をあつめる性格をそなえていた
- ・来航商人の宿所や倉庫、売買斡旋、
業者の保護を援助した
- ・日本商人のみならず中国商人や
ポルトガル商人の業務をも代行した

2. 中世倭寇の活動と実態

(担当：羽田)

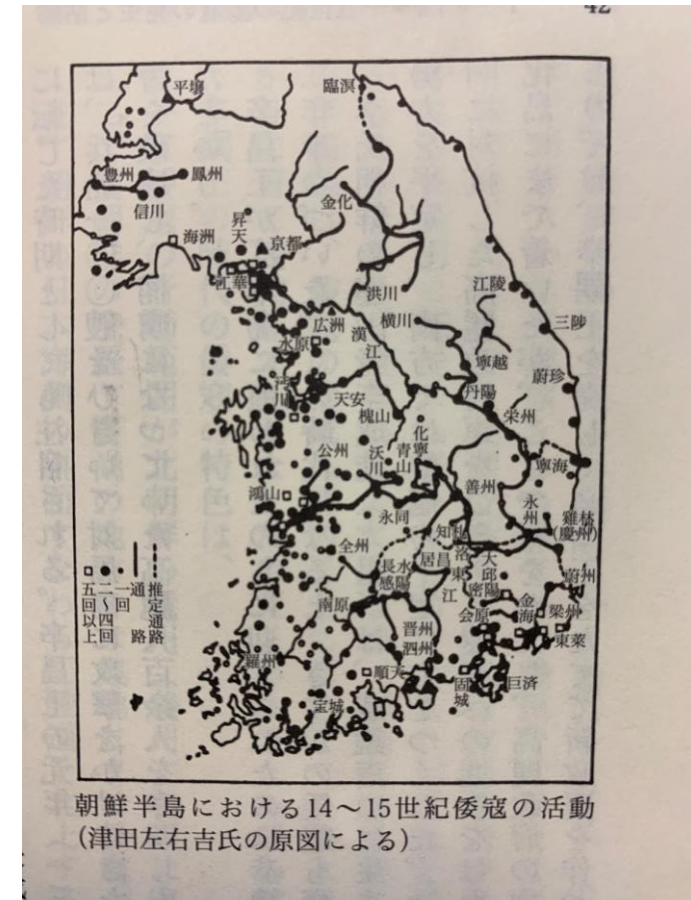
一 航路から紐解く交易手段と支配圏

【海賊行為を行う倭寇】

そもそも前期倭寇の出現及び、海賊行為の増長はモンゴル帝国の衰退、東アジアの秩序が崩れたことが大きい。ここで注目したいのは、前期倭寇の海賊行為が100年を超える長期に渡ったことである。海上貿易に対する倫理観が確立されていなかったのではないかと考えられる。

右図は朝鮮における前期倭寇の活動であり、海賊行為は海上や海岸付近に限らず、内陸部にまで侵入していることがわかる。倭寇の海賊行為を逃げるべくして、内陸部に移動した朝鮮人追い内陸部まで侵入していたという文献がある一方、内陸部への侵入回数や、海岸付近の人が居ない地域から盗むに限らず、あえて内陸部に侵入した意味は多角的に考えられる。

また、南シナ海（アラブ・ペルシア系ムスリム・華人...）の海上貿易は、東シナ海（日本・朝鮮・東南アジア）の海上貿易より発展しており、東シナ海における海上貿易のノウハウは、日本人・朝鮮人・華人が南シナ海の商船と一緒に乗って学んだという。故に、海上貿易のノウハウが前期倭寇のころは確立されていなかった可能性がある。



1章 中世の武装貿易商人 倭寇

3. 中世倭寇の影響力と爪痕 (担当：森田)

一 史料に残された記述から推察する中央政府と後世へのインパクト ～アウトローが築いた国家のルール

【海賊とのつながりが公に存在していた地域の事例】

中国の詔安県（しょうあんけん）の沿海地域に位置する梅嶺（ばいれい）では密貿易経営を行うとともに海賊勢力とも結びついていた。

なぜこのような地域が存在していたのか…？
詔安県は山や岩で八方塞がりの地域であり、唯一この県にアクセスできる場所は海（湾）だけであった。
つまり…
山や岩が天然の要塞となり悪人どもの行いを手助けすることにつながった。

郷里で暮らす者たちは、海賊となった親族を恥じることなく資金が送られてくることを地域社会の中で得意気に自慢していたという。



<https://map.sogou.com/?p=4003100>
Qより「詔安县」を検索



詔安乌山风景区攻略_万图壁纸网
wantubizhi.com

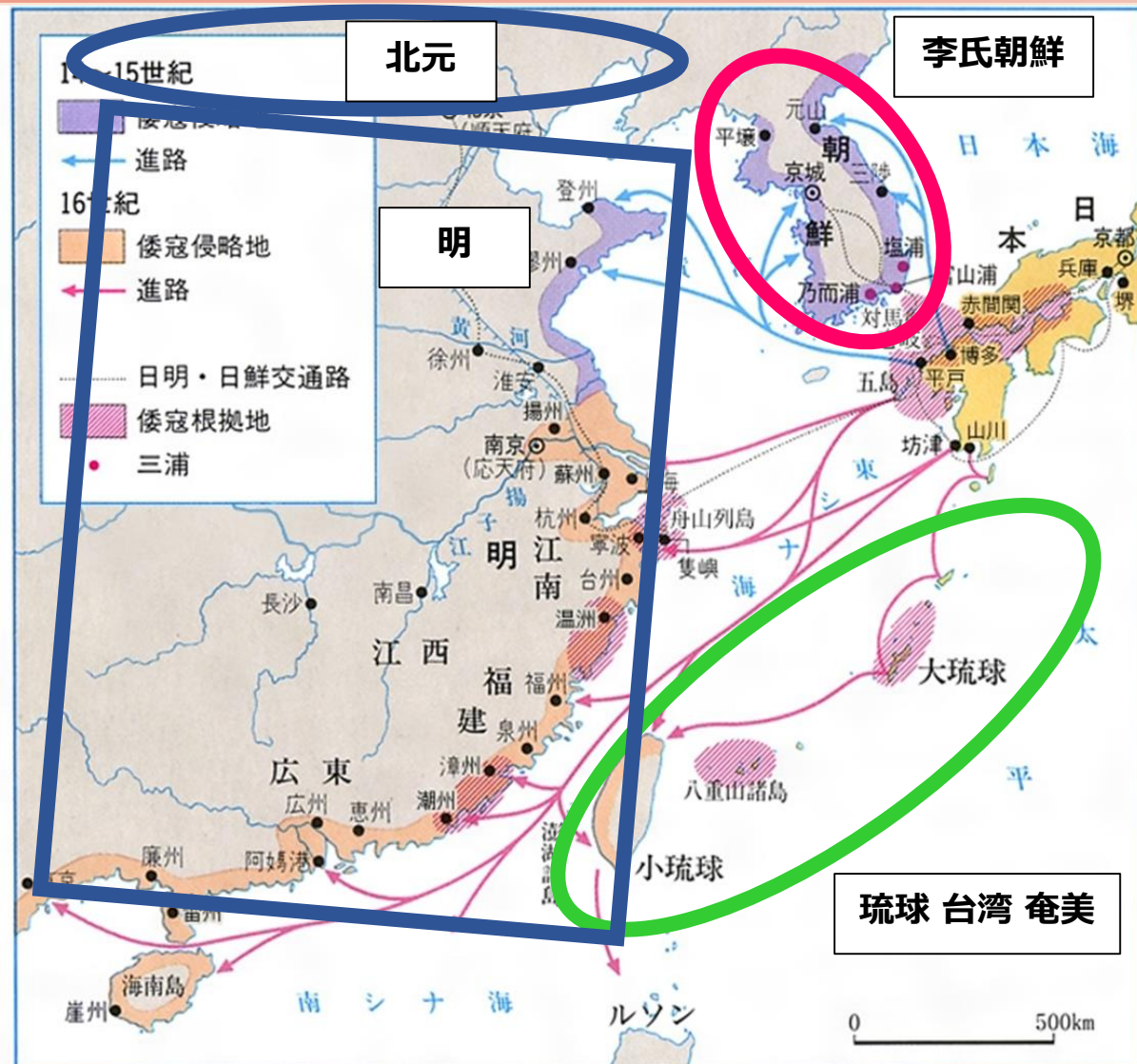
1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

2章 大陸国と周辺国の国内事情



元・明：① 明と北虜南倭（北のモンゴル南の倭寇）
 （中国） の攻防と貿易・外交問題

北元：② モンゴル・倭寇と華僑形成への
 （モンゴル） つながり

担当者：光永

琉球：① 他国との交易によりもたらされた
 台湾 文化・習慣

奄美：② 他国・倭寇への役割

担当者：森

高麗：① 対馬をどう認識していたか

李氏朝鮮：② 李成桂と倭寇・モンゴル・明・満州
 （朝鮮） との対峙

担当者：天野・光永

前期倭寇（14・15世紀）とモンゴル帝国の繋がり



出所：世界史の窓

朝鮮半島への前期倭寇発生の土壌

13世紀中頃迄：進奉船（日本船）による高麗国との貿易活動

1251年～1259年：モンゴル帝国の高麗侵攻

1274年：文永の役（蒙古襲来）

1281年：弘安の役（蒙古襲来）

高麗国と日本の貿易が途絶える

前期倭寇の活発な活動と高麗国の国内事情

1350年：前期倭寇の発生 → 活動が活発に

1356年：高麗国はモンゴル帝国からの独立を図る

・元から「双城総監府」を武力で奪還

1359年：紅巾賊の高麗侵攻

高麗国内の混乱期

8月8日 フィールドワーク：信州大学・豊岡氏

「モンゴル帝国・元の財政失敗が前期倭寇の背景にあり」

後期倭寇(16世紀)とモンゴル帝国の繋がり・華僑の初期的存在



北虜 (モンゴル北元→オイラト・タタール)

1429年：南京→北京遷都
1449年：土木の変 オイラト部
エセン・ハンが正統帝を捕虜に
1550年：庚戌の変 タタール部
アルタン・ハンが北京包囲

北辺防備軍事費・税の銀収
～国内『銀』の枯渇～

1567年：隆慶帝（穆宗）国庫立て直しの為、
倭寇とタタール（モンゴル）に貿易を認める柔軟策実施
「タタールと和議」「海禁解除、民間貿易認可」

～元末・明代とつながる、華僑の初期的存在～

- ①海禁罰則が貿易商人の帰国阻み定住
- ②1567年～生活の為の移住（貿易合法化・重税・人口増）

華僑社会の形成（東南アジア港湾都市：マニラ・ホアン・フノハップ・胡椒港…）

南倭（倭寇対策）

海禁

朝貢
貿易

大量の日本銀流入（密貿易）
後期倭寇の要因の1つ

海禁政策は、福建・広東の
沿岸沿いの民の死活問題

琉球・奄美・台湾から見た倭寇

琉球：以前からヤコウガイ交易 カムイ焼きの生産、輸出
13、14世紀には3人の王が 15世紀に統一
他国と活発な交易 朝貢 馬・硫黄を輸出
倭寇の被虜人や漂着した朝鮮人を本国へ送還
倭寇が密貿易 倭寇が琉球国王を名乗り貿易を行う
奄美は日本本土からの流刑地、移住先にも
琉球から倭寇に参加した可能性も

台湾：統一されておらず、様々な原住民が暮らす
未開の地であり、密貿易の拠点
逃げた倭寇がたどり着く地
交易を行う原住民も



1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

3章 日本の国内事情

1.倭寇は善か悪か (担当：山内)

- 倭寇を作り出した日本の時代（文化）背景

2.日本から見た倭寇の位置づけ (担当：田中)

- 分国法・日本の法律 この時代の背景

3.日本において倭寇が果たした役割 (担当：井内)

- 西日本諸大名との関係と倭寇の影響力

3章 日本の国内事情

2.日本から見た倭寇の位置づけ (担当：田中)

分国法 =>日本の当時のモノの考え方が反映している

例えば...「かね目録」の**喧嘩両成敗**。



『喧嘩した者たちは善悪を問題せず、両者とも死刑にする。もし相手が攻撃してきたとしても、我慢して、さらに負傷した場合は、被害者側に原因があったとしてもその場を穏便に対処したことに免じて、勝訴とする。』(清水克之『戦国大名と分国法』)*一部現代語訳されている

この法からは当時の喧嘩がどういうものだったのか、当時の人々が激情的気質をもっていたのかということが強く反映されている。当時の喧嘩は**知人や縁者を巻き込みで泥沼化**することが多かった。他にも、「連座」や伊達家「塵芥集」の自力救済の考え方から価値観が見えてくる。このように分国法などから**日本人の当時のモノの考え方**を見ていきたい。

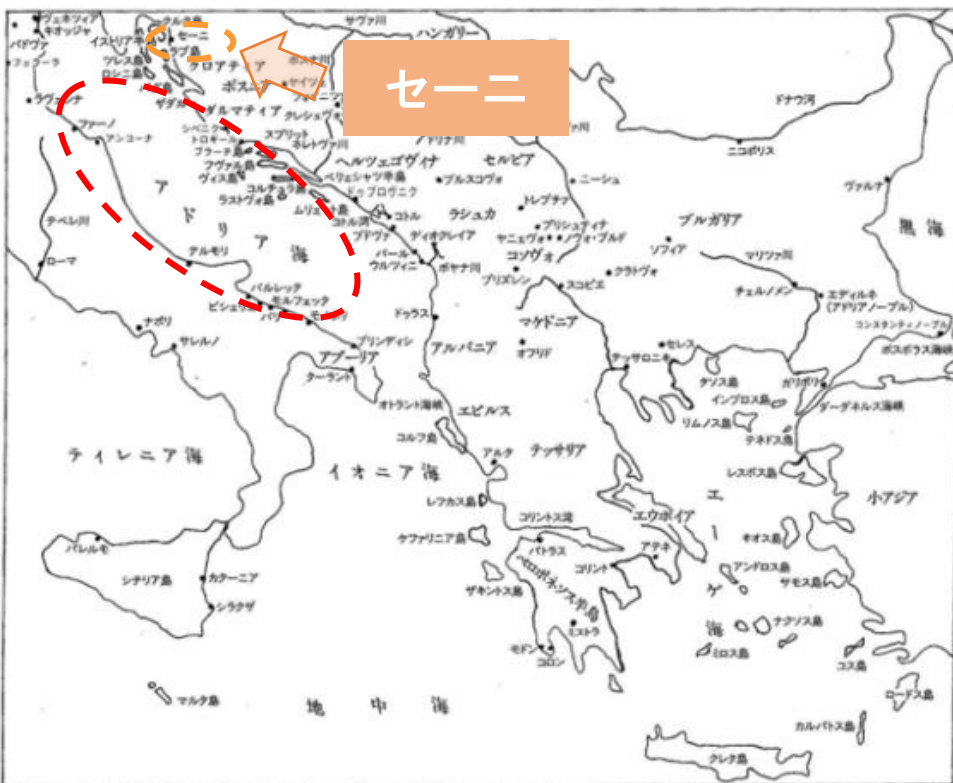
1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

4章 現在の世界の海賊



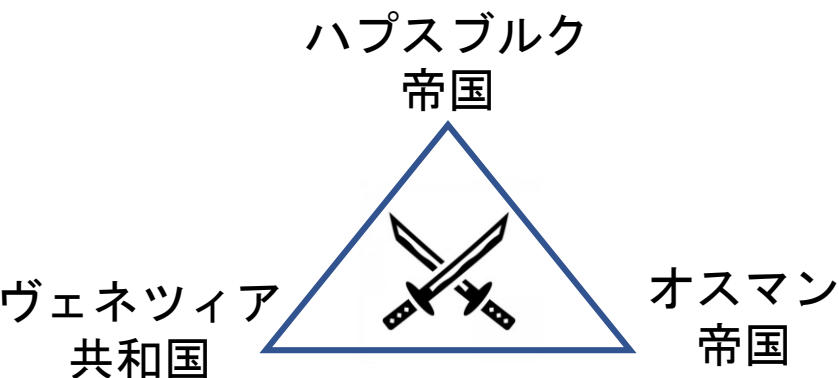
ウスコクとは？

活動時期	16世紀～17世紀
活動場所	クロアチア セーニ
特徴	多数が無給の非正規兵
	一部ハプスブルク帝国兵士として 給与を与えられた
	暮らしていくために略奪 ただし、帝国に利得の一部を献上



出典：アドリア海海賊ウスコクP.12

都合の良い海賊？



精神世界
聖戦の使命感
+
ウスコクの掟

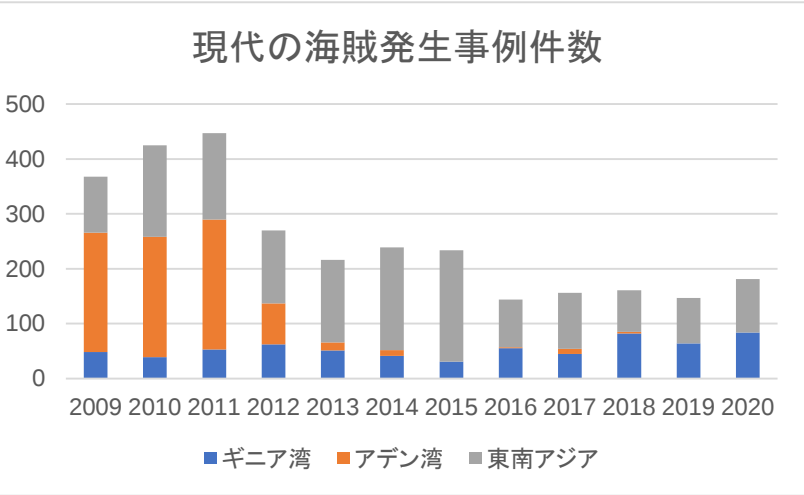
具体的行動
暴力と報復によ
って、また外形
的に再生産され
た団結

目的
コミュニティ
(自分の部隊、
誇り高きセーニ
の町)
の存続

出典：アドリア海海賊ウスコク2020,越村P220より筆者作成

現代における海上輸送が拓いたグローバル化と海賊ビジネスが経済に与える影響

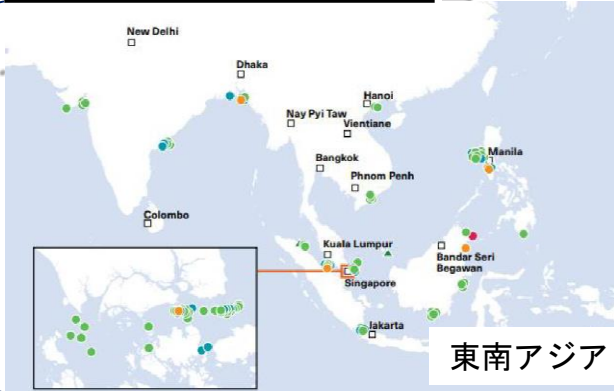
出典：外務省・防衛省ホームページ



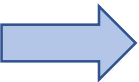
出典：外務省ホームページより筆者作成



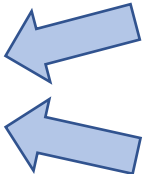
- カテゴリー1: 1件
 - カテゴリー2: 6件
 - カテゴリー3: 18件
 - カテゴリー4: 70件
 - ▲ 未遂事案: 2件
- ※カテゴリー1-4はReCAAP-ISCが定めた基準。カテゴリー1がハイジャック等の最も深刻な事案。2、3、4の順で深刻度が低下。



貧困



海賊ビジネス



生活の安定

各国の海賊対策

フィールドワーク2021.8月8日

信州大学人文学部 豊岡 康史准教授よりオンラインによる講義

「倭」の（再）登場



- ◆ 寧波事件（1523年）
- ◆ 入貢した外国人が、都市近郊で殺害略奪を恣にし、官軍を撃退して逃亡...
- ◆ 長江下流域における「凶暴な倭」というイメージ
- ◆ おそらく後期「倭寇」のうち、本当の日本列島出身者は1割もいない。出資者はカネ以外は関与せず。
- ◆ 前近代においては資源保有者は、売りに行かない。往来するのは二ーズがある地域の人。
- ◆ 朝鮮出兵までは、大陸渡航・交戦について記録が殆どない（残っていないだけでもあるが、おそらく祖（観音）信仰くらいしかよ

売りに行かない。往来するのは二ーズがある地域の人。
朝鮮出兵までは、大陸渡航・交戦について記録が殆どない（残っていないだけでもあるが、おそらく祖（観音）信仰くらいしかよ

豊岡康史
水盛涼一（教員）

羽田（ハタ）

光永和弘

ヤマノ

金美徳（教員）

22151037 森 勇太 モ...

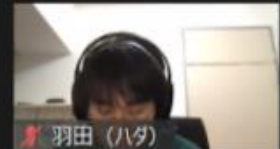
フィールドワーク2021.8月8日

信州大学人文学部 豊岡 康史准教授よりオンラインによる講義

後期倭寇と王直の登場



- ◇ 日中銀貿易への、徽州商人（浙江の銭塘江上流）の参入：出資はおもに江南の富裕層
- ◇ 五島列島・平戸／寧波沖における拠点の確保＝王直
- ◇ 系統はいくつかあったようだが、王直グループがもっとも強力
- ◇ 寧波沖拠点がやられたあとは、南澳へ移動
- ◇ ポルトガル人参



フィールドワーク2021.8月8日

信州大学人文学部 豊岡 康史准教授よりオンラインによる講義

北虜南倭の時代



◇ 明朝の経済発展が、銀流入により進展

→ 周辺国の貿易ニーズが高まるが、明朝は治安維持と貿易利益独占の観点から民間貿易を禁絶

→ 経済的なニーズと、国家管理が衝突：武装した貿易当事者の登場

北辺防衛という、銀流通のポンプ(マッチポンプ?)

：宋代も同様：経済発展のひとつの要

フィールドワーク2021.8月8日

信州大学人文学部 豊岡 康史准教授よりオンラインによる講義

商業の主体となるか、寄生するか 海上武力集団＝「海賊」の存在理由

商業寄生型海賊

貧困が理由になる場合が多い
貿易ルート上に発生する事が多い
国際的な鎮圧対象となりえる
リスクは大きいので、ほかの「ビジネス」があれば、そちらに移行する

例：カリブ海賊／ジョアスミー／嘉慶海賊・20世紀マラッカ・ソマリ
ア海賊など
※普通はこっち

商業主体型海賊

密貿易に従事
貿易規制があるゆえに武装
投資者が必ず存在
利害関係が錯綜して、
国際的な位置づけが難しい
もっとも儲かるからこそ存在する
→規制や構造が変わらないと存在し
つづける

例：後期倭寇

※自由貿易主義は商業主体としての海賊を絶対に産まない。「商業主体としての海家」＝英国・オランダの思想だから当然

※寄生型海賊は国家の治安維持機能次第なので、どこにでも出現しうるが、中



年間スケジュール

春

回	月	日	議 題	文献調査	フィールドワーク	備 考
7	6	5	研究計画発表（中止）	次回ベース文献疑問など報告		
8		12	研究発表資料（確認）	文献集計・目次		
9		19	分担発表 中間発表PPT確認・修正	文献集計・目次		
10		26	分担発表 中間発表PPT確認・修正	文献集計・目次	FW検討（仮）	
11	7	3	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
12		10	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
13		17	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
14		24	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
18	8	26	◆夏季合宿（中間発表） 箱根水明荘	発表者（役割分担）：1.研究概要、2.目次、3.内容、4.参考文献・研究計画・FW		
19		27	◆夏季合宿（中間発表） 箱根水明荘	発表者（役割分担）：1.研究概要、2.目次、3.内容、4.参考文献・研究計画・FW		
20		下旬	◆フィールドワーク実施？			

年間スケジュール

秋

回	月	日	議 題	文献調査	フィールドワーク	備 考
23	9	18	下期進行確認 分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		年間スケジュール再確認 下期加入メンバー確定
24		25	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
25	10	2	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
26		9	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
27		16	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
28		23	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
29		30	PPT目次レビュー 分担確認 論文提出/懇親会	各自完成版を持ち寄る		
30	11	6	講義なし(学園祭?)			多摩大学学祭(昨年度参考)
31		13	PPT目次レビュー 分担確認 論文提出/懇親会	全体を印刷して確認		
32		20	PPT目次レビュー 分担確認 論文提出/懇親会	全体を印刷して確認		
33		27	PPTレビュー AL祭・最終発表に向けて			
34	12	4	PPTレビュー AL祭・最終発表に向けて			
35		11	◆アクティブラーニング祭	アクティブラーニング(AL)祭 (多摩キャンパス?)		
36		18	◆論文発表			
37		25	◆論文提出日			メール送付期限
38	1	1	休講			
39		8	2019年度最終講義			
40		15	センター試験(休講?)			昨年度参考
41		22	◆論文提出/懇親会 (年度最終日)	最終論文(完成版)提出日		

今後のフィールドワーク(案)

インタビュー候補者名	候補者の所属等
村井 章介	元 立正大学文学部史学科教授
金 柄徹	慶應義塾大学文学部教授
榎本 渉	国際日本文化研究所センター 准教授
近藤 浩一	東京大学大学院人文社会系研究科 韓国朝鮮文化研究
高田 貫太	総合研究大学院大学文化科学研究科 教授
木村 清	株式会社 喜代村 代表取締役
桃井 治郎	清泉女子大学 准教授

参考文献・論文等(全72件)

文献

- [1]田中 健夫 倭寇 海の歴史 講談社学術文庫 2012
- [2]羽田 正 東アジア海域に漕ぎ出す 海から見た歴史 東京大学出版会 2013
- [3]田中 健夫 倭寇と勘合貿易 ちくま学芸文庫 2012
- [4]東京大学史料編纂 描かれた倭寇「倭寇図巻と抗倭図巻」 吉川弘文館 2014
- [5]吉成 直樹 琉球王国と倭寇 森話社 2006
- [6]高野 秀行 謎の独立国家ソマリランド 本の雑誌社 2013
- [7]村井 章介 中世倭人伝 岩波新書 1993
- [8]寺島 実郎 脳力のレッスン180 -鄭和の大航海と東アジアの近世- 岩波書店 2017
- [9]宇山 卓栄 朝鮮属国史 中国が支配した2000年 扶桑社新書 2018
- [10]荷見 守義 世界史リブレット人38 永楽帝 明朝第二の創業者 山川出版社 2016
- [11]岡田英弘/神田信夫/松村潤 紫禁城の栄光 講談社 2006
- [12]岩井 茂樹 朝貢・海禁・互市—近世東アジアの貿易と秩序 名古屋大学出版会 2020
- [13]岩井 茂樹 東洋史研究叢刊 中国近世財政史の研究 京都大学学術出版会 2004
- [14]村井 章介 東アジアのなかの日本文化 北海道大学出版会 2021
- [15]吉成 直樹 琉球王国は誰がつくったのか 七月社 2020
- [16]榎本 渉 僧侶と海商たちの東シナ海 講談社学術文庫 2020
- [17]桃井 治郎 海賊の世界史 中公新書 2017
- [18]上里 隆史 海の王国・琉球 ボーダーインク 2018
- [19]ピーター・T・リーソン 海賊の経済学 NTT出版 2011
- [20]山内譲 海賊の日本史 講談社現代新書 2018
- [21]竹田いさみ 世界を動かす海賊 ちくま新書 2013
- [22]鈴木董 文字と組織の世界史 新しい「比較文化史」のスケッチ 山川出版社 2018
- [23]桃木至朗編 海域アジア史研究入門 岩波書店 2008
- [24]豊岡康史 <清朝史叢書>海賊からみた清朝—十八〜十九世紀の南シナ海 藤原書店 2016
- [25]壇上寛 東洋史研究叢刊之七十八 (新装版 16) 明代海禁=朝貢システムと華夷秩序 京都大学学術出版会 2013
- [26]ウィリアム・H・マクニール 世界史(下) 中公文庫 2008
- [27]白井米雄・桜井由躬雄編 新装世界各国史5 東南アジア史①大陸部 山川出版 1999
- [28]池端雪浦編 新装世界各国史6 東南アジア史②島嶼部 山川出版 1999
- [29]津本 陽 天翔ける倭寇<上> 角川文庫 1993
- [30]太田 弘毅 倭寇—日本あふれ活動史 文芸社 2004
- [31]関 周一 対馬と倭寇—境界に生きる中世びと 高志書院 2012
- [32]齊藤 忠 倭国と日本古代史の謎 学研M文庫 2015
- [33]長野 正孝 古代史の謎は「海路」で解ける PHP新書 2015
- [34]五木 寛之 サンカの民と被差別の世界 ちくま文庫 2014
- [35]沖浦 和光 天皇と賤民の国 河出文庫 2019
- [36]宮本 常一 日本文化の形成 講談社学術文庫 2014
- [37]上原 善広 幻の韓国被差別民「白丁」を探して 河出文庫2019
- [38]高田 貫太 海の向こうから見た倭国 講談社現代新書 2017
- [39]瀬川 拓郎 縄文の思想 講談社現代新書 2017
- [40]瀬川 拓郎 アイヌと縄文—もうひとつの日本の歴史 ちくま新書 2016
- [41]高橋 貞樹 被差別部落一千年史 岩波文庫 1992
- [42]高橋 典幸 中世史講義 ちくま新書 2019
- [43]村井 章介 古琉球 海洋アジアの輝ける王国 角川選書 2019
- [44]岡本 隆司 日中関係史「政冷経熱」の千五百年 PHP新書 2015
- [45]高野 澄 歴史を変えた水軍の謎 祥伝社黄金文庫 2012
- [46]小川 雄 水軍と海賊の戦国史 平凡社 2020
- [47]清水克之 戦国大名と分国法 岩波文庫 2018
- [48]井沢元彦 逆説の日本史9戦国野望編 鉄砲伝来と倭寇の謎 小学館文庫 2005
- [49]田中 健夫 東アジア通行圏と国際認識 吉川弘文館 1997
- [50]村井 章介 国境を超えて-東アジア海域世界の中世 校倉書房 1997
- [51]百瀬 宏 北欧史 山川出版社 1998
- [52]Regis Boyer (レジス・ボワイエ) La vie quotidienne des Vikings (ヴァイキングの暮らしと文化) 白水社 2019
- [53]伊藤 潔「台湾」中公新書 1993
- [54]辟化元「詳説 台湾の歴史 台湾高校歴史教科書」雄山閣 2020
- [55]大東 和重「台湾の歴史と文化」中公新書 2020
- [56]楊 合義「台湾の変遷史」展転社 2018
- [57]荒野泰典/石井正敏/村井章介編 日本の対外関係 倭寇と「日本国王」吉川弘文館 2010
- [58]村井章介 古琉球 海洋アジアの輝ける王国 角川選書 2019
- [59]入間田宣夫/豊見山和行 北の平泉、南の琉球 中央公論新社 2002
- [60]上里隆史 マンガ 沖縄・琉球の歴史 河出書房新社 2016
- [61]模澤和夫 これならわかる 沖縄の歴史 Q & A 第2刷 大月書店 2020
- [62]渡邊大門 流罪の日本史 ちくま新書 2017

参考文献・論文等

論文

- [1] 三宅 亨 倭寇と王直 桃山学院大学総合研究所紀要 第37巻第3号 2012 https://www.andrew.ac.jp/soken/pdf_3-1/sokenk193-2.pdf
- [2] 北尾悟, 西村 さとみ 倭寇とは何か:歴史教育と歴史研究をめぐって 奈良女子大学教育システム研究開発センター 2018 <https://opac2.lib.nara-wu.ac.jp/webopac/TD00003412>
- [3] 吉成 直樹 琉球・沖縄文化の形成と外的衝撃 古代～中世平行期を中心に 法政大学学術機関リポジトリ 2013 <http://hdl.handle.net/10114/9293>
- [4] 稲本 守 欧州私掠船と海賊-その歴史的考察- 東京海洋大学研究報告 2009 <http://id.nii.ac.jp/1342/00000342/>
- [5] 真栄平 房昭 明朝の海禁政策と琉球：海禁・倭寇論を中心に 交通史研究67巻(2008) 2008 https://doi.org/10.20712/kotsushi.67.0_61
- [6] 二谷 貞夫 倭寇対策と通信使の創設：室町時代の朝鮮通信使 中等社会科教育研究巻33, p.103-106 2015
<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/53231#.YKduKqj7RPZ>
- [7] 近藤 浩一 東アジア海域と倭寇-9世紀末の新羅海峡との比較史的考察を通して-京都産業大学論集.人文科学系列.47巻.p.123-145 2014
https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwja4Kqzv9zwAhXJUN4KHaT3CCIQFjAAegQIAxAD&url=https%3A%2F%2Fksu.repo.nii.ac.jp%2F%3Faction%3Drepository_uri%26item_id%3D1407%26file_id%3D22%26file_no%3D1&usg=AOvVaw0hOE22LbHf07-r8HWi-Dmp
- [8] 浅川滋男 東アジア漂海民家船住居 鳥取環境大学紀要創刊号(2003.2)pp.41-60 2003

その他

- [1] 外務省 ソマリア沖・アデン湾における海賊問題の現状と取組 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/pirate/africa.html>
- [2] 金柄徹 「倭寇」から眺める海域世界 三田文学 No.139秋季号2019 2019